技術士だより

－㈳日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 夏季号<第８号>（平成3年6月15日発行）

◇巻頭言

支部長・会長をお引き受けして

原井 東男 （九州支部長・センター会長）

梅雨も終わりに近づき不順な天候が続いておりますが、会員皆様にはご健勝にお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、私こと、去る５月25日の支部・センターの総会におきまして、支部長・会長の重責を仰せつかりました。素より浅学非才の未熟者でございますが、皆様のご協力を頂き乍ら精一杯のお世話をいたす覚悟でございます。何卒お引き立て賜りますようよろしくお願い申し上げます。

前土居支部長は、緻密な心くばりと強力な行動力のもと“財政基盤の確立・組織の充実・活性化の行動”を会運営の柱としてご努力されてこられました。誠に敬服の至りでございます。

今度、後塵を拝するに当り“継続は力なり・数は力なり・協調は力なり”を運営の基本と考え諸事取り組みに努力して参りたいと決意を新たにいたしております。言葉の表現は違いますが、受け継いでゆく精神は一つでございます。

“魅力ある技術士会・活動する技術士会・躍進する技術士会”を目指して、会員皆様と一体になり将来へ向かって限りなき発展を期待し乍ら努力を重ねて参ろうではございませんか!!
ご協力をお願い申し上げ巻頭言といたします。

以　上

私の提言「建設コンサルタント部会を」

新城　精一（宮崎県技術士会会長）

○　昨年11月の合同セミナーの席上、宮崎県の土木部長が「技術士のような資格を持ったしっかりしたところを使っていきたい」という発言がありましたが、必ずしも「技術士の大会」に対するリップサービスではない。常々「資格者のいるしっかりした業者」を育てていきたいという方針を持ち、発注に当っても建設コンサルタント業務は建設コンサルタントへ、その他の業務はそれぞれの専門業者へ分割発注されてきた。業者の選定に当っても、登録しているとか協会員とかいうだけで形式的に判断せず、技術者等の実態を把握された上で決めてこられた。その次長が、今年の４月、地元の期待を一身に担って、宮崎県で初めて地元生え抜きの部長として就任された。従って今後はますます実力評価が進み、実態の伴わない業者はふるい落とされ。本当に意欲があり実力の伴った業者だけが選別されていく筈である。

○　ご承知のように建設コンサルタントは「技術士がいないと登録できない」と言われている。しかし、県内の協会員で登録している約40社でみてみると、技術士で登録しているのは14社にすぎず、一級建築士で登録しているのが16社もある。一級建築士での登録はあくまでも特例であって、こんなに増えるのは本来の目的からして邪道であろう。

（次ページへつづく）

1人でも多くの入会をお勧め下さい

（前ページよりつづく）

○　最近、建設コンサルタントの登録を抹消される業者が相次いでいる。それは建設省の登録・更新に際しての資格審査が非常に厳しくなったからとのもっぱらの評判である。借り物の技術士を排除するために、健康保険証や通勤の定期券の呈示を求めたり、抜き打ちに技術士本人に電話して勤務の状況を確認したり、また、管理技術士が高齢の場合には、東京までの出頭を要請されるようである。また、一級建築士で安易に登録されている実態が伝わったのであろうか、登録・更新に際しては一段と厳しく、今後は一級建築士での登録・更新は難しくなるのでは、と囁かれている。

○　建設省が建設コンサルタントの登録・更新の資格審査を厳しくし、県などの発注者が「建設コンサルタントの業務は技術士のいるしっかりした業者に発注する」という方針を貫けば、乱立気味のこの業界も自ずから選別され、再編されていく筈である。

事実、登録・更新に不安のある業者はふるい落とされないために「技術士」の確保に懸命であり、自社においては奨励金・資格手当をはずんで受験意欲を刺激し、また、つてを求めて県外にまで働きかけている。

このように地方の建設コンサルタントにとって「技術士」は、今や喉から手の出るほど欲しい資格となっている。

○　技術士は医師や弁護士等のように「職業法」で保護されていないから地位や評価が低いとか、技術士は多岐の部門にまたがるため、「職業法」にするのは憲法で定めた「職業選択の自由」に抵触するから無理だとか、よく耳にする話である。

ところで、建設コンサルタントの技術士にしても、決して「職業法」で保護されているわけではないが、今まで述べたように建設省や県などの行政指導を厳しくしてもらうことによって「職業法」に近い形で運用され恩恵を受けることができる。

○　「職業法」を一つの目標とすれば、建設コンサルタントの技術士はその最短距離にあると言えるし、また、技術士の中では一番恵まれた立場にあると言える。従って、その恩恵に甘んずることなく、どうすれば他の分野の技術士にも同様な恩恵を授けることができるのか、あるいは、手始めとして建設コンサルタントの技術士を対象に「職業法」の制定ができないものか、模索してみる価値はあろう。ともあれ技術士の中で、建設コンサルタントの技術士としてのまとまりも活動もないのは残念である。この際、建設・農業・水道等の部門の枠を越えて「建設コンサルタント部会」のようなものを作り、そこを拠点に㈳建設コンサルタンツ協会とも連携をとりながら行動開始してみてはどうだろう。

日本技術士会近況

1．平成３年度第２回理事会について

(1)　会長の選任・副会長の指名が以下のとおり行われた。

会　長　　上田　　稔（建設）
副会長　　本田　尚士（化学）
　　越河　良雄（電気）
　　藍　　光郎（機械）

(2)　常設委員会・調査委員会並びに特別委員会　各委員の委嘱
評議員の委嘱
事業委員会委員の委嘱
以上それぞれの委嘱が行われた。

2．平成３年度第１回支部長会議について
創立40周年記念行事へ向けて各支部の

（次ページへつづく）

（日本技術士会近況－つづき）
“本部への要望事項”を議題として論議した。主な事項を列挙すると以下のとおり。

(1) 技術士法の改正を行い、試験合格と同時に登録及び会へ入会するようにする。（北海道、近畿、中四国、九州支部）

(2) 会員一万人増強運動の促進と具体策を示せ。（東北支部）

(3) 試験事務費の増額を。(中部・九州支部)

(4) 九州支部が毎年行っている合同セミナーに対して補助制度を設けること。

(5) 環日本海技術者サミットの開催について。（北陸支部）

(6) 中部支部創立40周年記念大会（11月22日）への出席依頼と広告掲載依頼。

（日本技術士会近況報告　おわり）

技術士会九州支部・九州地方技術士センター
行事・会合などの報告

1．第4回常任幹事会

日時：平成3年2月16日(土)
場所：福岡市　博多第1ホテル
議事：
(1) 支部・センター第14期（平成3年～4年）役員について
　代表幹事で準備委員会を構成、検討、選出することとする。
(2) 本部役員選挙関係役員の選出について

2．第2回支部・センター合同役員会

日時：平成3年3月12日(火)13:00～16:00
場所：福岡市　博多第1ホテル
議事：
(1) 第4回常任幹事会審議議事
(2) 平成3年度第26回支部・センター定時総会を同年5月26日とする。
(3) 支部・センター現況報告

3．会計監査

日時：平成3年4月13日(土)13:00～16:00
場所：福岡市　博多第1ホテル
監査：平成2年度支部・センター収支決算書、事業報告書の会計監査を支部・センターの監事により監査を行った。

4．第3回支部・センター合同役員会

日時：平成3年4月27日(土)13:00～16:00
場所：福岡市　福岡商工会議所
議事：
(1) 平成2年度事業報告について
(2) 平成2年度収支決算報告について
(3) 平成3年度事業計画案について
(4) 平成3年度収支予算案について
(5) その他総会に提出する議案について
(6) 報告事項
　定時総会を5月25日(土)、福岡商工会議所にて開催する。

5．第26回九州支部・センター定時総会

日時：平成3年5月25日(土) 13:30～
場所：福岡市　福岡商工会議所
議事：
(1) 平成2年度会務及び事業報告
(2) 平成2年度収支決算及び監査報告
(3) 平成3年度事業計画
(4) 平成3年度収支予算
(5) 九州地方技術士センター定款改正並びに支部・センター表彰規定について
(6) 支部・センター役員改選（後述）
(7) 支部長・会長表彰　矢野 友厚 氏
以上、全員賛成で承認された。

卓話：「四国をゆく」講師 土居 貞夫 氏
懇親会：17:30～19:00
（次ページにつづく）

（支部・センター行事・会合報告つづき）

2．新年度役員決まる

5月25日、九州支部・九州地方技術士センター第26回定時総会で、平成3年度の役員を次のように決定しました。（敬称略）

◆九州支部

◦支部長　原井　東男（建設）
◦副支部長　水上　信照（建設）
　　青山　次則（建設）
◦幹　事（◎は地区代表幹事）

福岡地区	◎水上　信照(建)	笠木　直行(建)	
	重富　秀雄(経)	政野　光男(建)	
	川崎　迪一(建)	江崎　親教(金)	
	三原　節夫(水)	保澤　與(農)	
北九州地区	◎児玉　久(応)	北原　徳雄(化)	
佐賀地区	◎向井　治孝(建)		
長崎地区	◎田中　武熊(建)	藤永　勝之(応)	
熊本地区	◎青山　次則(建)	林　博昭(農)	
大分地区	◎今村　欣一(農)	児玉源一郎(建)	
宮崎地区	◎新城　精一(建)	臼井　士郎(建)	
鹿児島地区	◎上野　光夫(建)	黒岩　郁夫(農)	

◦会計監事　山谷　三郎(機)　完戸　鶏(農)

◆九州地方技術士センター

◦会　長　原井　東男（建設）
◦副会長　矢野　友厚（建設）
　　新城　精一（建設）
◦理　事

福岡地区	矢野　友厚(建)	町田　貞徳(電)
	是石　俊文(建)	斎藤　清美(衛)
	中島　義明(建)	斎藤　健男(建)
	久保田信一(建)	小川　康夫(建)
	前田　剛志(建)	
北九州地区	大村　力(電)	小松　榮一(経)
	纐纈　良男(機)	
佐賀地区	蒲生　文夫(建)	小部　晃(林)
長崎地区	芳賀三千億(経)	福岡　辰義(建)
熊本地区	清崎　義春(建)	渕田　精三(建)
大分地区	川野　宏平(農)	八鹿　昭祝(建)
宮崎地区	井川　仁(建)	谷口　忠俊(農)
鹿児島地区	御供田　交(建)	富永　和夫(農)

◦監　事　川江　直敏(建)　平野　道夫(建)

（支部・センター行事・会合報告おわり）

☞支部・センター委員会・部会だより

◇嬬総務委員会（水上委員長）

1．第1部会の集い
日時：平成3年3月23日(土)13:00～16:00
場所：福岡市　博多第一ホテル
議事：
(1)　第1部会（機械・船舶、電気、電子）の発足について
(2)　役員選任について
(3)　当面の運動方針について

2．第7回総務委員会
日時：平成3年4月27日(土)12:00～13:00
場所：福岡市　博多第一ホテル
議題：
(1)　"技術士だより"第8号の発行を6月15日、夏季号として発行する。
　・理由　定時総会終了後発行する。
(2)　会員名簿の発行日変更について
　定時総会終了後、新役員、新規加入者をできるだけ多く掲載することとする。

◇支部・部会（第1～6）発足

1．第1部会（機械、電気・電子、船舶）
設　立：平成3年3月23日
部会員数：34名
役　員：田島部会長
　　久保田、山谷、武田、森下
　　各幹事

2．第2部会（建設、応用理学）
設　立：平成2年10月27日
部会員数：96名
役　員：川崎部会長
　　久保田、小川、小倉、柏原、河田、黒田　各幹事

3．第3部会（化学、繊維、金属、資源工学）
設　立：平成3年3月2日
部会員数：10名
役　員：江崎部会長
　　里、北原　各幹事

（次ページにつづく）

（支部・センター委員会・部会　つづき）

4．第4部会（水道、衛生工学）
　設　　立：平成3年2月9日
　部会員数：19名
　役　　員：三原部会長、　松田、上原、
　　斎藤　各幹事

5．第5部会（農業、林業、水産、生物工学）
　設　　立：平成3年2月9日
　部会員数：24名
　役　　員：保澤部会長
　　完戸、林、川野、中島各幹事

6．第6部会（経営工学、情報処理）
　設　　立：平成3年3月2日
　部会員数：12名
　役　　員：芳賀部会長
　　柏木、永澤、甲斐、小松
　　各幹事

◇支部・第２部会（川崎部会長）

☆　第2回技術研修見学会の案内

表記見学会を下記のように企画いたしました。部会員各位および該当するセンター会員の皆様には、詳細案内状を郵送しますので奮ってご参加下さい。

◦日時：平成３年８月３日(土)13:00～16:00
◦見学場所：鹿児島県肝属郡串良町高山町地先、志布志国家石油備蓄基地建設工事現場
◦研修内容：浚渫埋立人工島における貯油施設等の建設

なお、該当部会以外の部会員の参加も募りますので、ご希望の方はご一報下さい。詳細計画内容を連絡いたします。

（委員会・部会などの報告　おわり）

❀　声の広場　支部の活性化対策に想う

久保田 信一（建設部門及び農業部門）

技術士会の未活性化が不満である。試験合格者の９割相当の全技術士約27千名中で、入会者４千名足らずの加入率は15%位を低迷している。昨年に新規登録者51名を生んだ九州地区では全技術士 782名を数えるが、入会の状況は加入率で25%と高水準ながら実会員数 200名へ届いたに過ぎない。加えて全会員の半数程を擁する関東地区に本部催し事が集中し、その恩恵に授かり難い地方会員のひとりとして寂しい思いを抱かされている。

かような情勢下に支部では、地方版会誌たる“技術士だより”の刊行や昨年初の試みなる“忘年会”の実施、更には支部部会の結成等等と独特の活性化対策が相次いで企画実施され、将来展望に期待が持たれる。その中の支部部会は全18部門を６部会に分けて順次発足の段階であり、他に先駆けて昨秋に発会した第２部会は建設・応用理学の２部門からなる構成ですでに活動を開始している。部会員の声を吸収して部会活動に繁栄させる趣旨のアンケート実施が第２部会活動の第１弾で、回答率54%を示すと共に多くの意見要望類が出され、会員の関心が高い内容であった。技術士会支部行事類の低参画率に寂しい想いを抱いていたが、会員は決して会活動に無関心なのではなくて、大きな期待と未活性への不満とを有していようかと推察され、会活性化への道しるべを得た想いを抱かされる。

次いで第２部会活動の第２弾は技術研修見学会の実施である。その第１回は山岳トンネルに実績のあるＮＡＴＭ工法を軟弱地盤なる都市部で採用された工事現場を対象として、去る２月２日に催された。申込者25名中参加者23名のもとで当会員の施工社作業所所長を講師に仰ぎ、多くの配付資料とスライド使用での講義に続く入坑視察の説明へ、どの面々にも熱意が感じられた。地山耐力を活用したトンネル築造法で環境・構造・施工上の諸制約を伴う厳しい条件下なる旨、十分に理解できた参加者全員が、専門技術を隔てぬ感激でもあった。視察後質疑応答の予定時間に質問の多さから不足を招いたことが、それを如実に示している。そして解散後に会員講師へ各

（次ページにつづく）

（声の広場　－　前ページよりつづく）

々で繰り返すお礼の弁が、また未練の雰囲気から（都合で写真が掲載できなかったが）記念撮影へ至った状況が、それを物語っている。第１回見学会は、“軟弱地盤に挑むＮＡＴＭ工法”同様に成功であったと評価され、その反面で参加者少数に不安感を覚えた想いである。

第２回技術研修見学会は４月13日の予定で全部会員へ案内状を送られたところ、参加申込者６名と極小だった故、中止されるに至った。志布志湾の国家石油備蓄基地工事現場を対象にした、“浚渫埋立人工島に築く貯油施設等の建設”なる研修テーマへ選定の誤りはなかったろうに、業界繁忙期と交通不便への配慮不足が不人気の原因であっただろう。今後は実施期日と見学対象について部会員の意見へ沿った計画を樹てていくことが、参画率向上のために必要かも知れない。かような見解を抱く想いである。

九州支部の相次ぐ斬新な企画実践に対し、役員の方々のお骨折りを支援致して感謝申し上げたいが、会員関心の高い支部部会結成においても行事参加者は少数であって寂しい。かような現象に対して今こそ、抜本的な対策を討議していくべきだろうと考える。そして会員諸氏には忌憚のない意見と要望を募りたく考える。既存会員の諸行事への参集を増大させ、栄え潤う支部活動の招来を図っていくことが、技術士会活性化の基本的方向づけであろう。未活性の現技術士会及び支部は非活性に終わらぬことを信じ、未加入技術士をも魅了して会員増強・活性化への道に歩んで行くことを期待する想いである。

以　上

（声の広場　おわり）

会員の授賞について

当支部・センター会員の長友邦泰氏（福岡・機械部門）が、このたび、㈳日本油空圧学会の「技術開発賞」を受賞するという栄誉に輝きました。同氏は３年前、三菱重工業㈱下関造船所の設計マンとしてのキャリヤーを活かすべく、独立されて㈲長友流体機械研究所、長友技術士事務所を開業され、今日まで活躍されてこられた方で、その間㈶北九州国際研修協会（ＫＩＣ）の「油圧システムコース」のコースリーダーもされておられます。今回、その努力と功績を認められ、専門とする学会から受賞されたことを支部・センターとしても心からお祝い申し上げる次第です。

ご多忙中の同氏に特にお願いして、技術報告を次のようにして戴きました。（編集委員）

技術報告

㈳日本油空圧学会　技術開発賞を受賞して

㈲長友流体機械研究所　長友　邦泰（機械部門）

この度、かねてより開発を進めて参りました「機械＝油圧ハイブリッド変速機」に対し、平成２年度の㈳日本油空圧学会「技術開発賞」を受賞いたしましたので、その概要をご報告いたします。

「機械＝油圧ハイブリッド変速機」とは、現在大量に使用されている油圧ポンプ＝モーターからなる「油圧伝動装置」または「油圧変速機」とは異なる構造の無断変速機です。通常の油圧変速機はその伝達動力を流体の圧力と流量の積で伝達される。このため流体の圧縮性、流体抵抗の影響を受けその動力伝達効率は最高点で80％、通常使用点では70％であり、伝達効率が重要な大容量連続運転の分野では使用されていない。

開発している「機械＝油圧ハイブリッド変速機」は入出力動側の変速比１の周辺ではピストンは往復動を停止し、密閉された静圧のみでトルクを伝達、即ち動力は流量を伴わない機械力で伝達され、減速時、増速時のみ

（次ページにつづく）

（技術報告　－　前ページよりつづく）
ピストンが往復動することで機械力と共に流体動力との複合で動力を伝える構造であり、その伝達効率は直結点で93～95%に達する。また減速はもとより入力速度の２倍まで増速が可能であり、高速制御性、小型軽量性を持ち純油圧変速機とはひと味違う新しい変速手段の開発である。勿論これらの理論は私の独創ではない。理論的な可能性は古くから指摘され一部には差動歯車と通常の油圧変速機との組み合わせで、航空機の発電機駆動変速機として大量に実用化されている。しかしこの方式は遊星式の差動歯車が必要とするためコスト高となり、限られた分野でしか使用されていないのが実情である。

差動歯車を使用しないでメカニズムとして機械＝油圧の複合伝達を実現する構造は主として旧西独で多くの開発研究が実施されているが、その中心が油圧技術者ではなくエンジン屋、車両屋が実施したのと、周辺分野の未発達で実用的な構造を見出せないまま、1970年代をピークに研究は下火となり現在に至っているが、今回開発した主題の変速機は油圧機器として合理的な構造を持つ、世界最初の実用的で耐久性を持った複合変速機のブレークスルーであると自負している。

開発はアイデアだけでは実現しない。数十枚を越す計画図とコンピュータシミュレーションで、資金を投入せずに相当高度な水準まで“試作”“試験”を繰り返したが最後は実証試験が不可欠であり、このため通産省の技術改善補助金の申請、また負荷試験のための運転試験装置は「福岡県工業技術センター機械電子研究所」の流体実験設備及び計測、解析機器の借用及び技術援助を受けることでようやく具体化のメドが得られた。

運転試験は平成元年４月から２年末まで実施し、種々の試験、試行錯誤、解析を実施した。試作機は最大出力170 KWであり、もし北九州市の機械電子研究所の協力が得られなければ開発そのものが難しくなっていたと思い同所の協力に感謝すると共に、これら公的機関の保有する優れた設備の有効利用こそ、中小企業の技術開発の大きな条件であろうと考えている。

技術士の保有する固有技術も「品質改善」「生産技術改善」等の共通性のある技術は通常の“指導”という行為でそれ相当の価値を持つだろうと思われるが、我々ハードウエアに密着した機械技術者は無形の“知識”では商業的にも通用しがたく、洋の東西を問わずどうしても「ハードウエア」に密着した具体的な技術が要求されるようであり、その意味では機械＝電気系の技術士が「ハードウエア」の実証開発を実施することは有効であろうと思われる。

最後に、今回の開発機は既に開発成果一部を適用した記録的な大型機器の開発が企業との間で進行中であり、また変速機そのものの実用研究も鋭意推進中である。

以　上

随想　定年技術士どこへ行く！！

川野　宏平（農業部門）

日本技術士会九州支部技術研修会に出席してのことである。今日も健康で、加えて有益な講演も拝聴したので、ぽちぽち特急「にちりん」に乗って帰りましょうと、独り言を云って大きなあくびをしているところに、近くに居たＫさんから、「これからＯ市に帰るんでしょう。ひと列車あとのにして、博多駅地下食堂街でお茶でも飲んで別れようか」と誘いの声がかかった。あっ、それは有り難いとひと口返事で「いいよ」と答えて、駅に向かって歩き出した。歩くうちにＭさんとＫ。さんも参加して４人となり、列車の時間をあまり気にすることもなく、地下食堂街にてビールで乾杯し、野菜の煮込みや刺身などを肴にしながら和やかな宴がはじまった。今日の研修会も良かったが、４人でビールを飲む宴もまた良いことではないかと云いながら話は弾む。Ｍさんが「技術士だより」の編集委員をしていることもあって、いつしか話はそちらに移り「技術士だより」も発刊して２周年になるので、そろそろ中身も肩の凝らない柔らかいものもあっていいよなあ。こんな話にアルコールの酔いがまわる程に弾みがついて、

（次ページにつづく）

（随想　―　前ページよりつづく）
それじゃ、あんたが今度の「技術士だより」に柔らかい肩の凝らない文章を書きなさいということになり、柔らかい原稿が書けるかどうかわからないが、とにかくペンを執る羽目になっいしまった。“さかもり”がこんな顛末になろうとは予想もしなかったのだが。

さて、はじめに技術士の活動状況から見た私なりの分類をしてみると、(1)若いときから技術士事務所をもって活躍されている者と、(2)若いときから企業内技術士として活躍されている者、それに(3)公務員等を定年退職して技術士活動をしている者とに大別されるのではないかと思う。

私の場合は(3)に所属しており、定年退職による急激な環境変化による若干のショックの中で、技術士登録を行って自ら定年技術士と称して、「われこれよりいずこに行かん」と考えた者の一人である。(1)の技術士は定年制が無いので、いつまでも現役として活躍できる幸せな方々である。ご苦労は多いかも知れないけれど。(2)の技術士には定年退職はあっても、企業内で長年培ってきた実力を発揮して、定年後もその延長線上で、比較的楽しく仕事ができるのではなかろうかと考えているのだが如何なものであろうか。(3)の技術士は少なくとも私の場合、30数年ぬるま湯の中につかったような生活をして来たのであるからはたと困って、これからの人生をどのように組み立てるべきかと考え込んでしまった。

定年と同時に先ず７つのお別れをしなければならない。消極的で寂しい別れじゃないの、と云われるかも知れないが現実に訪れる別れである。先ず職場との別れである。その年の３月31日まで出勤した職場に翌日からもう出勤しなくても良いのである。いや、もう出勤してはいけないのだ。自分の行き場所を失った喪失感が襲ってくる。次が肩書きとの別れである。部長だ、課長だと云う肩書きが無くなってただの人になる。これから先ただの人がひとりぼっちで、たそがれの人生路を「とぼとぼ」と歩き続けなければならないのであろうかとぽつりと思う。３つ目の別れは金との別れで、かっては給料やボーナスをきちんと戴いていた者が年金生活へと移って行く。４つ目の別れは今すぐとは云わないけれど、家族との別れがはじまる。同じ屋根の下で暮らした子供達も社会人となり親元を去って行きまた、長年共に暮らして来た妻に先立たれるかも知れない。それに昨今「ぬれ落葉」なる言葉が囁かれているが、そんな良人のもとを去りたいと云う妻もいるとか、「哀れなるかな」である。次は情報との別れであろうかと思う。かって職場で聞いたような生々しい情報も噂話も少なくなってくるであろう。また人間関係も極端に狭くなり、現役時代のような広い人間関係はなくなると思う。最後の７つ目の別れは健康との別れである。定年後の体力は年々落ち込んでしまい、健康保持には並み並みならぬ努力をしなくてはならない。

以上７つの別れをしなければならない私もただ消極的なことばかり云ってもおれない。失ったものに替わる新しい７つの出会いを求めるべきだと考えて積極的に行動することにした。

歌の文句じゃないけれど、「生きて行こうよ希望に燃えて‥‥‥」と口ずさみながら、積極的行動へのスタートをした。それは申すまでもなく私の場合は昭和47年に取得していた技術士資格の活用である。技術士登録をすることから始まって建設コンサルタントに就職したことにより、新しい７つの出会いが始まった。勤務する職場を得て肩書きもいただき、加えて技術士の肩書きもできて、年金生活はしばし先送りにしてきちんと給料もいただき、新しい人間関係が幅広くできて情報もちゃんと入手できるようになった。「生き甲斐」を求め得た人間は健康とのお別れを先送りすることができる。作家の曽野綾子さんが身体障害者と海外旅行をして、そのことを痛い程知り得たとＮＨＫのニュース解説で云っておられたが、「さもありなん」と思った次第である。ただひとつ家族との別れは如何ともし難く、時間の流れと共に変化するものでありむしろ逆らうことなく、これを容認することの方が良いと思っている。こうして幸いにも新しい出会いを求め得たのは、何と申しましても技術士なる国家資格を取得していたからだと深く感謝している。世の定年を迎える皆様、定年後に備えて現職時代に必要と思う資格を取得しておけば、新しい人生の門出に際して大いに役立ちますよと申し上げたい。

（次ページにつづく）

（随想　―　前ページよりつづく）

「探求なき人生は生きるに値しない」とソクラテスが云うように、人は死ぬまで探求心を持ち続けたいものである。定年技術士も時間の経過と共に落ち着いた日々が続くと新たな欲望が湧いてくる。例えば一週間の行動予定の中で私の場合必ず空白の時間があるが、この空白を埋める仕事はないものかと考えるようになった。これはより充実した日々を過ごしたいと願う欲望の現れであろう。

こんな想いをしている矢先に、技術士のプロジェクトチームであるシーイークラブに出席しているときの情報として、「労働安全コンサルタント」の受験をしてみないかということである。聞くところによるとこの試験に合格すれば個人活動ができて、只今勤務している会社の仕事と並行してやれるので、私にとっては願ってもない制度であると考えてさっそく挑戦してみることにした。然しいざ取り組んでみると60歳過ぎての勉強、それに受験など無理なことだと分かったのであるが、とにかく労働安全衛生法や産業安全一般等について勉強を開始した。更に東京や福岡で開催された講習会にも出席して受験態勢を整えることに努力してみたが、なかなか思うにまかせずその年は成功しなかった。２年目の受験については時間の経過と共に熱意が次第に冷めて行くのが分かった。いい年をして受験勉強するよりゆっくりゴルフでもやって、楽しく過ごした方がいいと思うようになり、昨年の受験熱意はどこへやら失せてしまったのである。

そんな状況にあった８月のある日、家内が思い出したように「今年は受験しないの」と云い出した。うーんそうだなあ、と云っただけである。数日後にＦ市のＫさんから電話がかかって、今Ｏ市に出張して来た。暑いなあどうしているかという内容のもので、本当に暑い日が続いているし、駅前で昼間から生ビールを飲みながら雑談をして別れたのだが、彼も別れる際に「あっそうだ例の試験今年も受けてよ、今年は合格するから」と云って帰って行った。こんな次第でもう一度だけ受験しようと決意して、翌日から40日間みっちり問題集のみまる暗記することに専念した。５回目位読んだときはほぼ何ページにどんなことが書いてあるまで覚えることができた。

テストの日時は10月21日だったと思う。Ｈ駅に前日の夕方着いて宿泊するホテルを探したが、ちょうど「とびうめ国体」の直前であるため、どこのホテルも満室でありやっとＧホテルに無理にお願いして高級部屋に泊めて戴いた。人生は面白いもので、実はこのホテルに宿泊したことにより試験に合格したような気がする。それは女性マッサージ師が、６０歳過ぎて国家試験に挑戦することに頭が下がります。私も若いのだし頑張らなくてはいけない。今夜は良いお話を聞いて感謝です。絶対合格するよう心を込めてマッサージします。と激励と合格の予言をして戴き、試験当日は全身さわやかな体調で受験できて、結果は問題集からすべて出題されており無事終了した。予言どおり合格通知がきて有難く感謝している。今そのマッサージ師の女性に、あなたの予言どおり合格しましたと云う術もなく‥‥。

残された面接テストも無事終わり、「われいずこに行かん」と云い、「探求なき人生は生きるに値しない」と云うソクラテスの言葉に感動した定年技術士も、このあたりでやっと落着きと進むべき方向を掴み得たようである。

７番目の健康との別れもしばらく先送りすることにして、「優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱‥‥」など理想を追求する心の存在がある限り、「年は70であろうと16であろうと」青春は失われない、と云うサミュエル・ウルマンの言葉どおりに青春を失うことなく歩き続けたい。

（この項おわり）

★投稿を募る★

技術士の主張や賛助会員(会社)の紹介など、技術的または一般的なことでも結構です。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。

（200字詰め原稿用紙２～３枚程度）

宛先　〒810 福岡市中央区大名１丁目12番61号　新天ビル402号

㈳日本技術士会九州支部　☎092

九州地方技術士センター　(771)9534

会員ニュース

★㈳日本技術士会　名誉会員及び九州地方技術士センター正会員・熊本地区・水道部門　古賀　茂先生が平成３年５月18日逝去されました。
　謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

☆㈳日本技術士会（九州支部）入退会

(区分)	(地　区)	(氏　　名)	(技術部門)
入会	福　岡	本田　貴裕	応用理学
〃	長　崎	大橋　義美	建　設
〃	福　岡	中尾　鎮彦	水　道
〃	〃	棚町　修一	建　設
〃	鹿児島	江夏　　正	農　業
〃	福　岡	原口　正春	〃
〃	熊　本	加来　英嚣	建　設
退会	〃	古賀　　茂	水　道
入会	福　岡	熊谷　孝夫	建　設
〃	宮　崎	西田　　靖	〃
〃	福　岡	山田　邦昭	衛生工学
〃	大　分	古城　輝夫	応用理学
〃	福　岡	中川　茂幸	建　設
〃	〃	松本　泰輔	〃

☆㈳日本技術士会（九州支部）入退会(つづき)

(区分)	(地　区)	(氏　　名)	(技術部門)
入会	宮　崎	黒木　重久	建　設
〃	長　崎	矢野友一郎	〃
〃	福　岡	大橋光太郎	〃
〃	大　分	石井　良雄	農　業

☆九州地方技術士センター入・退会

入会	熊　本	政顕	加来　英嚣	建　設
〃	福　岡	〃	原口　正春	農　業
〃	大　分	〃	古城　輝夫	応用理学
〃	福　岡	〃	上村　正人	建　設
〃	〃	〃	長田　晴道	〃
〃	〃	〃	山田　邦昭	衛生工学
〃	〃	〃	松本　泰輔	建　設
〃	〃	〃	竹岡　伸一	〃
〃	〃	〃	松田　研志	水　道
〃	長　崎	〃	高村　　清	建　設
〃	北九州	〃	平嶋　隆祥	農　業

－以上、平成３年４月１日～平成３年５月末
受付順、敬称略－

◎　平成３年１月より３月まで入退会者の氏名は、定時総会議案書に掲載しております。

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆５月号
・私の技術士業務
　最近の海外業務報告　／松坂　安正
・バイオリアクターの廃水処理の応用
　／山嵜　和幸
・電析処理の歯科医療への応用
　／穂坂　眞一
・会員増強志向のマーケティング論
　／小泉　泰通

☆５月臨時増刊号
研究・業績特集
各分野における技術士活動の最近の成果

☆６月号
・提言
技術士業務の発展に関する各種提言に思う
　／越河　良雄
・私の技術士業務
　海外業務の経験の中から／野田　卓司
・研修のページ
　今、何故また５Ｓ運動なのか
　／中田　賢治

☆７月号
・私の技術士業務
　道を求めて55年　／荒井　明
・豚ふん尿から除草剤をつくる(1)
　／佐々木　健
・技術者の生涯教育センター設置構想
　／岡本　邦彦

編集後記

☆支部・センターの新しい息吹が始まる。
☆部会も動きが出てきた。タテ糸、ヨコ糸が錦糸・銀糸を織り成してと、みのりの秋を切望するのは早いが、前進あるのみ。　（小）

発行：㈳日本技術士会・九州支部
　　九州地方技術士センター
編集：九州支部・総務委員会